



「家庭教育を実践する日」

News Letter

令和8年10月号

●ご家庭で簡単に実践できる取組を毎月紹介しています。

読書習慣を 身に付けるには

親子でいっしょに読み聞かせ

子どもたちは、本や絵本の読み聞かせが大好きです。それが、親御さんの肉声での読み聞かせであるならば、子どもの安心感や親密感が増します。お気に入りの絵本を毎日「読んでー！」と持ってくる子ども多いはず。ついつい忙しくて「あとでね。」と言ってしまいがちですが、読み聞かせをする曜日や時間を決めておくなど、負担なく気軽にできる時間を決めておくこともよいですね。

また、図書館や子育て支援センターなどでは、読み聞かせ会などのさまざまなイベントを行っています。そういった場所を活用し、親子で読み聞かせを楽しむこともできます。

子どもの成長に応じて 読書を生活の中に

文部科学省は、子どもの読書活動の意義を次のように定義しています。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

近年は、電子書籍等の利用が増加し、読書スタイルの変化が起きていること、タイムパフォーマンスを重視した読書など、本を読む方法も多様化しています。

不読率が高いと言われる中学生・高校生については、限られた時間の中で興味・関心に応じた本を選ぶ、必要な情報を書籍から探すなど、読書のスキルを高めることや、「娯楽」として読書を楽しむことからスタートしてみましょう。

不読者解消の力ギは「環境」にあり！？

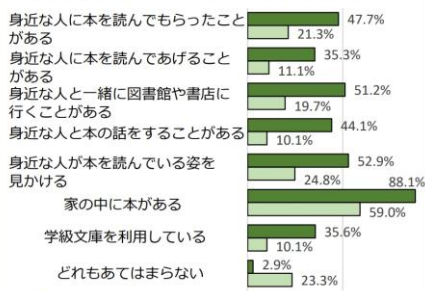
様々な読書に関する調査では、本を読まない理由の上位は、「読みたい本がない」「本を読むことに興味がない」「本を読む時間がない」と続きます。では、本を読んでいる子どもと何が違うのでしょうか。右の資料から、

- ・身近な人に本を読んでもらったことがある → **読み聞かせの経験**
- ・身近な人と本の話をする → **本や読書の話がある**
- ・身近な人が本を読んでいる姿を見かける → **読書が日常化**
- ・家の中に本がある → **自然と本を手にとれる環境**

がその違いとして表れていることが分かります。どれも家庭でできそうなことばかりです。本を読むよう声をかけるより、環境から見直すことが不読解消の近道かもしれませんね。

身近な読書環境

■「本」を読んでいる児童・生徒と読んでいない児童・生徒の身近な環境の違い（％）【複数回答可】



「本」を読んでいる児童・生徒は、身近な人と本を通じて交流している割合が高い。

令和6年度子供読書活動推進に関する調査結果
＜概要版＞（東京都） 抜粋

●家庭教育を実践する日とは？

「家庭の日（毎月第三日曜日）」と「早く家庭に帰る日（8のつく日）」を合わせた日です。10月は8日、18日、28日です。

●家庭教育に関するご相談は

岐阜県 県民生活課 生涯学習係
TEL 058-272-8752

このNewsLetterは
岐阜県HPにも掲載しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/13009.html>



★PDF等のデジタル版であれば、👉のある画像やQRコードをタップすると、動画やWebページのリンク先を開くことができます。